

# 第5学年社会科学学習指導案

平成16年10月5日(火)第2校時

5年2組(男子20名 女子19名 計39名)

指導者 河原 木 孝 浩

- 1 単元名 わたしたちの生活と工業生産  
1 自動車をつくる工業

## 2 単元について

### (1) 児童の実態

子供たちは、これまでに、自分たちの食生活を支える農業や水産業に従事している人々の具体的な営みについて学んできた。

農業については、稲作に焦点を当てて調べ、我が国の農業が自然環境と深くかかわっていることや、農作物の生産が国民の食料を確保する上で重要な役割をもっているということを学習してきた。子供たちは、稲作について追究する中で、気候や土地の特徴、その地域に伝わる文化や伝統等、資料をもとにさまざまな角度から調べた。各自で調べたことをもとに、米作りにはどんな環境が適しているか、どんな工夫が必要か考え、討論を行った。この活動では、一人一人が自分の考えや立場を意識し、意欲的に話し合うことができた。このように、一つのテーマをもとに資料を集め、討論によって考えを深め合うことを好む子供たちである。

水産業の学習では、学校での社会の学習時間以外にも、図書館の本、インターネット、テレビ番組、家族や親戚への聞き取り等、自発的に調査をする子供が多かった。

工業の学習では、食料生産の学習で培った力を生かしながら、さらに意欲をもって追究することができるようにしたい。

### (2) 単元のあらまし

本単元は、学習指導要領の内容の(2)を扱う。ここでの主な学習内容は、「我が国の工業生産について、さまざまな工業製品が国民生活を支えていること、我が国の各種の工業生産や工業地域の分布、工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸の働きについて、調査したり地図帳や地球儀、資料等を活用したりして調べ、それらは国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考えるようにする」ことである。生活の中で当たり前のように使っている工業製品に改めて目を向け、新しい視点でその生産について学習できるように、単元を構成する。

### (3) 指導にあたって

パソコンやプロジェクタ等の視聴覚機器を活用し、写真・地図・グラフ等の資料や、インターネットコンテンツを効果的に提示できるようにする。

導入の場面では、ワイヤーハーネスの実物など、自動車の部品を実際に提示し、自動車工業への関心を高めるとともに、その仕事に携わる人々の工夫や努力を間近で見ることができるようになる。

調べ学習の段階では、子供たちが十分に内部情報を蓄積してのぞめるよう、関連図書やビデオ、

新聞，雑誌，インターネット等，さまざまな資料を用意する。それによって，学び合いの活動で，全員が自分の意見をしっかりともち，立場を明確にした上で話し合いを構築することができるようにする。

学び合いにおいては，ペア，グループ，課題別などの小集団での話し合いを行ったり，途中に自力解決の時間を入れたりするなど，形式や形態にとらわれない学習過程を工夫する。

また，自分の意見に固執することなく，友達の考えも柔軟に受け入れながら，そこから新しい学びを作っていくことができるような雰囲気作りにつとめたい。そのために，どのような意見でもその優れている点を見だし，認めるようにする。

#### 本単元における具体的な手立て

	三つの手立て		具体的な取り組み
1	学習への見通しをもたせる 導入の工夫	学ぶ対象との ダイナミックな出会い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の導入では，理想の自動車を設計する活動を行い，主体的に学習対象とかがかわろうとする意識を引き出す。</li> <li>・実物の自動車の部品（ワイヤーハーネス）を提示することで，子供たちの知的好奇心をゆさぶり，自動車工業への関心を高める。</li> </ul>
2	学び合いを充実させる ための工夫	資料活用能力を 育てる工夫	・どの資料にも共通する項目（「タイトル」「出典」「年度」「縦軸」「横軸」）に注目して，応用できるようなスキル練習をする。
		よりよい考えを 練り上げていくための 工夫	・分かったことを整理して考えたり，もう一度詳しく調べたりすることができるようにするために，学び合いの中間に自力解決の過程を組み入れる。
		よりよい考えへの 気づきを促す視点の工夫	・自分の立場を明確にして話し合いに参加できるようにするために，「賛成か・反対か」「可能か・不可能か」等，学び合いの観点をあらかじめ示す。
3	振り返りの工夫	本時でおさえおきたい 基礎基本の定着	・一単位時間でおさえおきたい事項を，小テストなど記述によって確認する。
		自己評価・相互評価の 充実	・自分の学習の振り返りだけでなく，友達の意見によって考えが深まったことについて述べている感想を取り上げ，紹介する。

### 3 単元の目標

日本の産業の様子や，国民生活とのかかわりについて理解し，産業の発展に関心をもつ。

工業生産に従事している人々の努力や工夫，工業生産を支える貿易や運輸の働き，工業地域の分布等を，各種資料や教材を活用して調べ，工業生産が国民生活を支える重要な役割を果たしていることについて考えることができる。

#### 4 評価規準

##### (1) 「我が国の工業生産」の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	観察・資料活用の 技能・表現	社会事象についての 知識・理解
我が国の工業生産の様子に関心を持ち、それを意欲的に調べることを通して、国民生活を支える我が国の工業生産の発展について関心を深める。	我が国の工業生産の様子から学習の問題を見いだして追究・解決し、国民生活を支える我が国の工業生産の興味を考え、適切に判断する。	我が国の工業生産の様子を的確に調査したり、地図や地球儀、統計等の各種の基礎的資料を効果的に活用したりするとともに、調べた過程や結果を目的に応じた方法で表現する。	我が国の工業生産は国民生活を支える重要な役割を果たしていることを理解している。

##### (2) 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	観察・資料活用の 技能・表現	社会事象についての 知識・理解
自動車工業の生産の様子について調べようとする意欲を持ち、それらの活動を通して、人と環境に優しい車づくりに関心をもつ。	自動車生産が、効率よく、安定して行われている理由について、携わる人々の協力や関連工場との協力、機械やロボットによる生産の工夫等を関連づけて考えることができる。	写真資料や働く人からの情報と、各種の統計資料を目的に応じて読み取り、自動車生産の特色をとらえることができる。	自動車工場の生産の特色と課題、働く人々の工夫と努力について理解する。

#### 5 指導計画（指導時数：13時間）

時	小単元	学習活動	評価規準
1	日本の自動車工業	自分が乗ってみたい自動車の設計を考える活動を通して、自動車工業に興味を持ち、調べる課題をもつ。	(関)自動車工業に興味を持ち、自動車がどうやって作られているか、日本の自動車工業がどのように成り立っているのか、調べようとする。
2	自動車作りのひみつ	自動車の組み立ての順序や手順等を調べ、どのような工夫がされているかを知る。	(知)自動車工場における自動車づくりの工程を調べて理解することができる。
3	自動車工場ってどんなところ？	自動車工場で行われている作業について知り、働く人々の工夫や努力について考える。	(知)他の人々と協力したり、さまざまな工夫をしたりして仕事を進めていることを理解する。

4	部品はどこで作られるか	自動車の各部品を作っている工場について調べ，組み立て工場の注文に従って仕事を円滑に進めるための工夫をとらえる。	(知)組み立て工場と部品工場が連携して，自動車がつくられている様子をとらえることができる。
5 6 7	部品工場を見学しよう	自動車の部品工場を見学し，働く人々の工夫や努力，環境に配慮した取り組みについて理解する。	(技)見学カードに自分の予想を書いたり，取材したことを整理してまとめたりする。
8 9	ジャストインタイム	自動車の組み立てに必要な部品が，必要なときに必要な分だけ運ばれてくることをとらえ，工業生産を支えている運輸の働きを理解する。	(知)運輸の仕事が自動車工業を支えていることを知り，そのシステムを理解する。
10 11	自動車とともに成長する日本	自動車の発達の背景をつかみ，その発達の結果として社会や生活が大きく変化してきたことを理解する。	(思)自動車の発達によって，社会や生活がどのように変化してきたのか考える。
12 (本時) 13	地球に優しい自動車	人と環境に優しい自動車を目指して，どんな研究や開発が行われているか調べ，まとめる。	(思)自動車の発達の背景をふまえ，未来の自動車はどのようなものであれば理想的か，考えたり話し合ったりすることができる。

## 6 本時の指導

### (1) ねらい

自動車の発達の背景をふまえ，未来の自動車はどのようなものであれば理想的か，考えたり話し合ったりすることができる。

### (2) 展開

段階	学習活動	教師の指導・支援	評価 【手立ての評価】
つかむ 3	1 既習事項の想起をする。	・フラッシュコンテンツを用いて，前時までの学習内容(自動車づくりの工程等)をテンポよく確認できるようにする。	
	2 学習課題をもつ。		
	グループで，未来の自動車を設計しよう。		

<p>みとおす 7</p>	<p>3 ペアでの 学び合いをする。 ・各自で構想・取材し、 ノートにまとめたものを 隣同士見合う。</p>	<p>・自分のノートに書かれていないことを見 つけ、より多くの観点をもって設計に当た ることができるようにする。</p>	
<p>確かめる 25</p>	<p>4 グループでの 学び合いをする。 ・意見を出し合いなが ら、大まかな設計図を 模造紙に書き込む。  5 全体での 学び合いをする。  6 班での 学び合いをする。</p>	<p>・個々の意見が生きるように、1人1項目 アイデアを書き込める様式にする。 ・「車体の形」「材料」「車内設備」等、観 点を明確にして設計図に書き込んでいく ように助言する。  ・環境や福祉について考慮しているグルー プの設計図を紹介し、全体に広める。 ・「燃料」という観点を示し、エネルギー 問題にも目を向けて考えることができる ようにする。</p>	<p>【よりよい考えを練り 上げていくことができ るような学習過程であ ったか？】</p>
<p>まとめる 5</p>	<p>7 本時の まとめをする。</p>	<p>・単元のはじめに設計した自動車と比較し ながら、自動車工業と環境・福祉のつなが り確かめる。</p>	
<p>ふりかえる 5</p>	<p>8 今日の学習を 振り返る。 ・感想を発表する。  9 次時の学習の 見通しをもつ。</p>	<p>・本時の学習内容だけでなく、単元全体に かかわる感想も認め、単元のまとめである 次時の学習へとつなぐことができるよう にする。</p>	<p>・自動車の発達の背景 をふまえ、未来の自動 車はどのようなもので あれば理想的か、考え たり話し合ったりする ことができる。 (発言・ノート・感想 発表)</p>

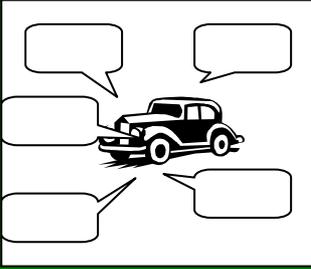
(3) 具体の評価規準と指導の手立て

観点	A 十分に満足できる	B おおむね満足できる	Bに至らせるための 手立て
関心・意欲・態度	環境や福祉の視点から、未来の自動車に必要な機能を考えて設計に生かしたり、話し合ったりすることができる。	自動車の発達の背景をふまえ、未来の自動車はどのようなものであれば理想的か、考えたり話し合ったりすることができる。	自分の考えに自信がもてずにいる子には、どんな考えでも大事な意見であることを話し、励ます。 班での話し合いでは、友達の意見を参考にして考えを深めることができるようにする。

7 板書計画

10 / 5

グループで、未来の自動車を設計しよう。



環境にやさしい  
バリアフリー

自動車の制作工程

エネルギー問題の資料

(タッチパネル式スクリーンで提示)